

保護者の皆さま

平成29年12月吉日
世田谷区立京西小学校
PTA会長 西田 淳
文化厚生委員長 兼益 優希

平成29年度 第3回家庭教育学級（講演会）報告書

11月27日（月）に京西小学校 多目的室にて、第3回家庭教育学級として、ジブラルタ生命保険（株）チーフインストラクター島田雅彦氏をお招きし「おこづかい教育出前教室～おこづかいが子どもの人生を変える～」講演会を開催いたしました。

当日は、ご来賓に世田谷区教育委員会・社会教育指導員の平田様、青少年用賀地区委員会会長 隅田様、久末校長先生を加え、約45名の保護者の皆様にご出席いただきました。テーマに沿ったクイズやゲームを交えて子どもにおこづかいを与える際の注意点や具体的な与え方、またその意義など多方面に渡りわかりやすくレクチャーしていただきました。

現代は、様々な電子マネーの普及により暮らしが便利になった反面、“見えないお金”が増え、そしてそれらを利用する事で気軽に物が手に入り、欲望をコントロールできにくい環境になっています。だからこそ子どもの頃からお金についてきちんと学ぶ必要があります。

自ら管理するおこづかいは、子どもがお金に向き合うとても良いきっかけになります。また、親側も決まった金額を月に一度ただ渡すのではなく、お金との向き合い方にはルールがある事、失敗があり責任が伴う事等を子どもに伝えていく必要があります。すなわち、「しつけ」と同じです。

具体的なおこづかいの渡し方、例えば、おこづかい袋で渡す。また、その中から貯金をさせる、月に一度は“おこづ会議（おこづかいぎ）”と一緒に語り合う等、親の役割もレクチャーしていただきました。その他、こんな時にはどうする？では、お手伝いにはお駄賃をあげるべき？等のテーマでグループディスカッションを行い、様々な見解に触れる事ができました。

おこづかいを通して、お金と上手に付き合い、欲望をうまくコントロールできる子どもに成長してもらうためには、「しつけ」をする親の強い意志が必要だと、反省も含め色々と考えさせられる貴重な時間になりました。

※裏面にてアンケートに寄せられたご感想を一部ご紹介いたします。



《講演会の模様》

- おこづかい帳を是非やらせてみたいのです。
- 小学1年生ですが、おこづかいを始めてみたいと思いました。良いきっかけになりました。
- 会社を休んで、参加したかいがありました。企画に感謝です。
- 目からウロコでした。
- 子どもにお金の管理をさせる為に、親も真剣に付き合ってみ守り、アドバイスして協力し合って学ばせる事が大事だと感じました。
- 今日からでもすぐに始めたくなるお話しでした。
- ルール作りが大事なのだという事がわかって良かった。
- お金との付き合い方を考える良い機会になった。
- 家族で協力しなくてはならない大切さを知りました。
- 前からおこづかいの事で悩んでいたのも、本日の講演会に参加できて良かったです。
- 講師の方のお話しがおもしろく聞き入ってしまいました。
- 子どもとはいえ大人同様の対応、考えで接しなければいけないと思いました。
- 娘と一緒に付録のおこづかい袋を使って、話し合いながらお金との付き合い方を学んでいきたいと思います。
- 失敗から学ぶ事が大切だと思いました。おこづかい始めたいと思います。
- ただ渡せばいい、というだけではなく「貯金」「借金」等、大人になった時に必要な教育もできるのだという事がわかりとても勉強になりました。
- 他の家庭がどうされているのかを知る事ができたので、不安が解消されました。
- 子どもにお金のありがたみや大切さを教える為にも、きちんと家族で取り組んでいきたいと思いました。
- 子どものおこづかいも勉強になりましたが、自分のお金の使い方や管理が必要な事が良くわかりました。
- 親子で努力する点、コミュニケーションの機会も増える事等たくさんの効果が得られそうな期待が持てました。
- 貯金を一緒にしに行く等、とても良いと思いやってみようと思います。
- おこづかい袋、是非やってみようと思います。
- 貯金をしたり、目標を立てて親との話し合いで交渉力をつける等、おこづかいを渡す事でこれからの成長に大切な事が学べると感じました。
- おこづかいは自由に使えるお金と、目的を持って貯金するお金をしっかり分けて考える事、失敗しても怒らず、失敗から次につながる意識を学ぶ機会と捉える事、そしてお金の付き合い方を親子一緒に考えていく事が大切であると感じました。
- 子どものお金をしつけるにあたり、祖父、祖母が物をどんどん買い与えるので、どういう風に教育していくか、いつからおこづかいを始めるか、親のスタンスをしっかりと考えねばならないと感じました。